



## 武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは？

「水の学校」は、市民のみならずといっしょに、水を知り、考える7回連続のシリーズ講座です。くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。



### 連続講座レポート

## 第2回 武蔵野の水はどこから？～奥多摩町水源の森訪問

8/2（土）は猛暑が続く中、武蔵野市の水源林がある東京都奥多摩町を訪ねました。受講者26名に、環境を学ぶ大学生などのオブザーバー参加や市職員も加わり、総勢40名以上のツアーとなりました。現地では奥多摩町役場の職員、森林セラピーガイドのみなさんと合流し、森と水についてのお話を聞きながら、たっぷり森を散策。地元食材のお弁当も味わいました。

### 武蔵野市と奥多摩の森

奥多摩の森林は、武蔵野市を始めとする都市部の貴重な水源林となっています。しかし、間伐などの手入れ不足やシカの増加による食害などで木が枯れてしまったり、植物がない裸山が土砂災害の原因となるなど、森林が危機に直面していました。

その事態を改善し森林を育成・保全するために、武蔵野市、奥多摩町、東京都農林水産振興財団の3者が協定を結び、豊かな緑を取り戻すための整備活動を10年以上にわたって行っています。

### 樹齢1000年！巨樹「倉沢のヒノキ」

武蔵野市から奥多摩町へはバスで約2時間。「巨樹」が多いことで知られる奥多摩ですが、この日は参加者全員で、樹齢1000年ともいわれる「倉沢のヒノキ」をめざしました。登りは思った以上にきつく、歩き始めるとあっという間に汗が出て来ましたが、そびえ立つヒノキが見えて来るとみなさんから感嘆の声が上がりました。

ヒノキの幹は大人が6～7人でやっと抱えられるほどの

太さ。ここまで大きくなったということは、もともとは曲がっていたりして木材に向かず伐採されなかったが、それが大きくなるにつれて反対に神聖な物として大切にされるようになったのではないか…というガイドさんの考察に一同感心。枝振りによってヒノキとスギを見分ける方法を教わったり、毒があるのでシカが食べない「アセビ」がどんどん増えていることなど、森のお話を聞きながら、全員無事に巨樹と対面することができました。

### 登計トレイルで「森林セラピー」体験

奥多摩の山菜や野菜、東京エックス豚など地元の食材を使ったお弁当を食べた後は、「森林セラピー」のコースでもある登計トレイルを歩きました。

「森林セラピー」とは、科学的に検証された森の癒し効果のことをいい、ストレスホルモンの数値や心拍数の変化などを計測し、効果が確かめられた場所だけが「セラピーロード」の認定を受けることができるそうです。

今回歩いた「登計トレイル」は1.3kmと比較的短いコース。散策路にはウッドチップが敷きつめられ、ところどころに空を眺められるベンチや展望台が設置されています。森の空気や風景を満喫でき、夜は満天の星空を望むことができるそうです。和菓子の楊枝などに使われるクロモジなど、豊かな植生を教わったり、途中ヘビにも遭遇しました。傾斜もゆるやかだったので、緑を吹抜ける風の中、おしゃべりをしながら心地よく散策することができました。

■ 奥多摩森林セラピー <http://okutama-therapy.com>



### 受講生の声より

- 「倉沢のヒノキ」に到着するまでの山登り！がすごかった。
- ヒノキは大きかったけど、つかれも大きい。
- 深い緑と美しい川が印象的でした。奥多摩は東京の宝。
- 改めて、こんなに遠くから来ている水なんだ、とありがたく思えた。
- 森の中の道を歩くのが本当にこち良くて、楽しめた。あれだけの広さの場所を整備するのは大変だろうなあ。
- 森林セラピートレイルはとても気持ち良かった。また行きたい！
- 水あつての農業、山あつての水。もっと林業がさかんになる仕組みを学んでみたい。





## 「きき水」に挑戦！武蔵野の水のお味は？

奥多摩に向かう車中では、水の味わいをくらべる「きき水」に挑戦しました。今回準備したのは、「武蔵野市の水」「奥多摩の湧水」「東京都葛飾区の水道水」の3種類。少量ずつ配り、見た目、におい、味の違いから、水の種類を当ててもらいます。飲み比べた感想として、「ちょっと硬い味がするので、湧水ではないか」「カルキ臭いを通り越してカルキそのものの味だから、絶対水道水」といった声があがり、みなさん微妙な味の違いをしっかりと聞き分けているようでした。



そして、「武蔵野の水はやはりおいしい」「武蔵野の水が美味しくてびっくり」というコメントや「普段飲んでいる水と違いすぎて印象的」という声も。今回は、スタッフに比べて受講生のみなさんの正解率が非常に高く、味の感想も的確を射ていたことには驚かされました！ふだん何気なく飲んでいる水も味はさまざま。お家できき水にチャレンジしてみてもいかがでしょうか？

### 今回使った水は…

- 武蔵野市の地下水「水・好き」  
武蔵野の深井戸 250m からの地下水 100% をボトリング
- 奥多摩の湧水  
奥多摩町の天然水をボトリング
- 東京都葛飾区の水道水  
金町浄水場の高度処理水を家庭で汲んだもの

## 水コラム no.2: 武蔵野市の上水道

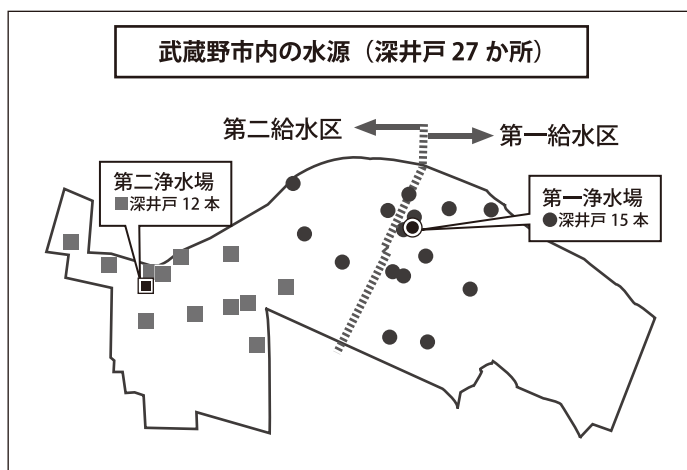
水道部工務課

### 水道水の原水は、80% が地下水

武蔵野市の上水道は原水の80%を地下水が占めています。地下水は、市内27か所にある水源井戸から汲み上げており、その量は、2013年のデータで、年間1390万m<sup>3</sup>にもなります。

地中250mの深井戸から汲み上げられた地下水は市内に2か所ある浄水場へ送られ、消毒、ろ過を経て各家庭へ届けられます。地下水以外の20%は、東京都が管理する「朝霞浄水場」「東村山浄水場」などから水を受け取り、使用しています。この水は利根川、荒川、多摩川から取水されています。

多摩川上流部は地下水・河川水のどちらにとっても重要な水源地となっているため、武蔵野市も今回訪ねた奥多摩町や、桧原村などで水源の森作りに参加しています。



### 武蔵野市の「水収支」。水の源、行く先は…。

武蔵野市の年間降水量は1562mm<sup>\*</sup>。これに市の面積をかけて体積を計算すると、毎年約1676万m<sup>3</sup>の水が空から降り注いでいることとなります。現在、東京などの都市部ではその多くがそのまま下水道へと流出しています。武蔵野市でも降った雨の52%が下水道に流れ込みます。そのため、今年の夏のような集中豪雨の際には短時間に下水道の流量が増加し、受け入れきれない水があふれて浸水被害をもたらすこともあります。

武蔵野市では、雨を地面へ返す「浸透ます」や下水道管に流れ込む雨の量をコントロールする「貯留施設」などを増やし、流出する雨の量を昭和20年代と同程度の40%にまで戻し、市域での水の出入りを健全なものにする取り組みを進めています。

※2009～2013年の平均

### 今、蛇口に届く水は40歳？

地表に降った雨が地面の下にしみ込んで蓄えられたものが地下水です。私たち人間は地表を流れる水に加えて、地面を掘って得られる地下水を古くから活用してきました。

雨が地下水として蓄えられる期間は、地形や地質によってさまざまですが、多摩地区の深井戸の地下水の年齢を測定すると40年ほど経ったものが最も多いそうです。地下水の年代を測るには、水に含まれるトリチウムという物質を用います。水の中のトリチウムを調べることで、その水が地下に留まっている時間の長さがわかるのだそうです。

40年前といえば、ちょうど武蔵野市のまちづくりが本格化した頃です。当時地面にしみ込んだ雨が、今私たちが使う豊かな地下水の源なのですね。

### 10月の予定

10/4 (土) 連続講座第4回 武蔵野市の水循環を考え、「環境フェスタ」で伝えよう

10/19 (日) むさしの環境フェスタ～「水の学校」ブース出展

